

「お金のヒミツや仕組み」をより分かりやすく
＜共感が挑戦を支える

クラウドファンディングの底力＞



近年話題上がることの多くなったクラウドファンディングという言葉をご存知でしょうか？
Crowd(=群衆)とFunding(=資金調達)を掛け合わせた造語で、様々な事業計画や新たなアイデアを実現するために、一般個人から資金調達することが可能なオンラインプラットフォームです。

クラウドファンディングと一言でいっても今は様々な種類があります。非投資タイプと投資タイプに二分され、それぞれをさらに色分けすると非投資タイプには「寄付型」「購入型」の二種類、投資タイプには「ファンド型」「株式型」「融資型」の三種類に分類されます。

それぞれどのような特色があるのでしょうか？

1.「寄付型」～ここから始める社会貢献～

非投資タイプ。ネットを通じて国内や海外に寄付活動をすることができます。主に震災や台風などによる災害の復興支援や難病支援、発展途上国への支援などがあります。

日本では2011年に起こった東日本大震災をきっかけに、復興事業の資金調達手段として取り入れられたことで広まりました。昨年発生した熊本地震の復興支援ツールの一つとしても注目されています。

一般的な寄付とは少し異なり、寄付後も活動の状況や資金使途が報告書や礼状として手元に届く透明性の高さもポイントです。

2.「購入型」～夢ある新アイデアを応援～

2016年、世界中でブロックチェーン開発のために投資された金額は、およそ2億8000ドル(300億円)以上と予測されています。

ブロックチェーンの応用としてまず押さえておきたい産業分野といえば金融サービス関連です。これまで銀行の保護する取引台帳と照らし合わせる時間、そしてセキュリティの確保やチェックにかかるコストを大幅に引き下げ、世界中どこでも、瞬時にやり取りできるシステムが生まれる可能性もある分野です。

総合コンサルティング会社のアクセンチュアのレポートによると、米国の大手銀行がブロックチェーン技術を活用した帳簿管理システムを導入して取引情報を管理できるようになった場合に削減できるコストは、1社あたりで年間約1兆4000億円とのことです。

米国の大手銀行8社だけでも、年間11兆円という国家予算並みのコスト削減に繋がることが指摘されています。

3. 「ファンド型」～分配金や独自の特典を楽しむに～

投資タイプ。新事業やプロジェクトを立ち上げるにあたって、計画に賛同する個人投資家から匿名組合を通じて出資を募り、売上等の成果に基づき契約期間中に定期的に金銭でのリターンを配分する仕組みです。

後述する「融資型」と似ていますが、「ファンド型」は融資ではなくあくまでも投資したファンドから分配金を受け取るという形式です。また、金銭でのリターンだけではなく、その企業の商品やサービスが提供される場合もあり人気を集めています。

4. 「株式型」～将来輝く企業をよく見定めて～

中央集権的なデータ管理が不要で、安価に信頼性の高いシステムが構築できるブロックチェーン技術の応用により、これまで国や自治体が一括管理していた土地の登記や出産・婚姻・転居も、ブロックチェーン上で登録・公示・管理できるようになる可能性があります。地方自治体や政府の業務負担減少にも期待が寄せられている分野です。

ジョージア（グルジア）やホンジュラス、スウェーデンでは、すでにブロックチェーン技術を活用して土地の登記を進めています。

また、IT先進国として知られるエストニア共和国では、すでに課税システムや登記、医療記録などの分野で、ブロックチェーン技術を応用したインフラの構築がはじまり、ブロックチェーンをベースとした証券取引所の開設準備も進められています。

さらには2017年8月、エストニアは世界で初めて国家としてデジタル通貨を発行して資金調達を行う、ICO（イニシャル・コイン・オファリング）の実施を計画していることを明らかにしました。

いずれも実証実験の段階ではありますが、今後、ブロックチェーン技術が国家のインフラへ影響を与える可能性を探る上でも、要注目のプロジェクトといえるでしょう。

5. 「融資型」～世界のクラウドファンディング市場の代表～

お金を必要としている事業者に対してお金を融資する形で支援を行う手法です。「貸付型」や「ソーシャルレンディング」とも呼ばれます。

世界のクラウドファンディング市場でのシェアが最も高いのがこの「融資型」です。プロジェクト開始のための資金を個人投資家が融資し、企業側は金利をつけて毎月元利金の一部を返済していくという仕組みです。

融資先は不動産やベンチャー企業など多岐に渡り、比較的少額から始められるため、複数の案件に分散投資することも可能です。

日本でクラウドファンディングが正式に開始されたのは2011年からで、認知度はまだまだ高くないのが現状です。

しかし、アメリカを筆頭に世界ではクラウドファンディングを利用した資金調達と資産運用が活発に行われており、市場規模も年々急速に拡大しています。

クラウドファンディングには小さなアイデアや目標の芽を大きく育てて開花させる力があります。自身に合った手法で、共感できる目標や魅力を感じるプロジェクトを見つけてみてはいかがでしょうか。

>>更に資産運用に関する情報を見られたい方は向け。

お金のプロを目指す！「日税FPフォーラム」はこちら

⇒<http://www.nichizei.com/fpforum.html>

<著者プロフィール>

福田 猛

ファイナンシャルスタンダード株式会社 代表取締役

大手証券会社入社後、10年間、1,000人以上の資産運用コンサルティングを経験。2012年IFA法人であるファイナンシャルスタンダード株式会社を設立。独立系資産運用アドバイザーとして数多くのセミナーを主催し、幅広い年齢層の顧客から支持を受け活躍中。

著書に「金融機関が教えてくれない 本当に買うべき投資信託」(幻冬舎)がある。

2015年楽天証券IFAサミットにて独立系ファイナンシャルアドバイザーで総合1位を受賞。

■■■■■ 著作権 など ■■■■■

著作権者の承諾なしにコンテンツを複製、他の電子メディアや印刷物などに再利用(転用)することは、著作権法に触れる行為となります。また、メールマガジンにより専門的アドバイスまたはサービスを提供するものではありません。貴社の事業に影響を及ぼす可能性のある一切の決定または行為を行う前に必ず資格のある専門家のアドバイスを受ける必要があります。メールマガジンにより依拠することによりメールマガジンをお読み頂いている方々が被った損失について一切責任を負わないものとします。

参考

経済金融情報メディア「F-Style」: <https://fstandard.co.jp/column/>

“F-Style”とは？

人々の暮らしと密接に関わる「お金のヒミツや仕組み」を、より分かりやすくお伝えする経済金融メディアです。